

さいたま市文化財時報

# かや 掘りほり

第72号

## 平成30年度 埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、様々な文化財のうち、地中に「埋蔵」された「文化財」のことをさします。埋蔵文化財は、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料であり、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化を伝える貴重な存在です。

さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、様々な埋蔵文化財が遺されています。現在、市内の各地には、「埋蔵文化財包蔵地」(埋蔵文化財の存在が知られている土地)が1,100か所以上確認されています。埋蔵文化財は、一度地中から掘り出してしまうと、二度とは元に戻せないものであるため、できるだけ埋もれたままの状態での保存してゆくことが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまうことが避けられない場合には、記録による保存を目的とした「発掘調査」を実施します。今年度2月までに市内で実施された発掘調査は、24件ありました。

また、さいたま市では、平成28年10月より、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備を目的とした学術的な発掘調査を行っています。

今回は、これらの発掘調査の中から主な調査成果をご紹介します。

### ～解明が進む縄文の暮らし～

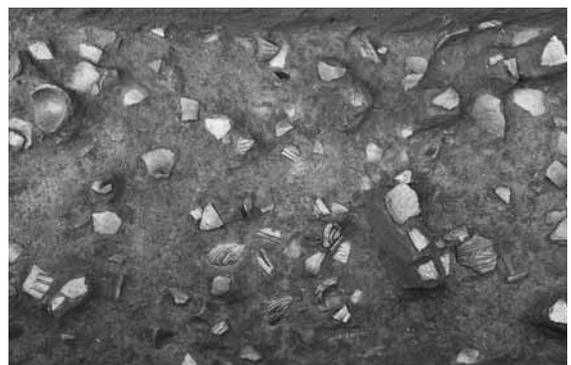
#### しんぶくし 真福寺貝塚の調査 <岩槻区>

東武野田線岩槻駅の南東約1.6km、岩槻区域南3丁目に所在する遺跡です。今年度は3ヵ年で計画していた東側調査の最終年にあたります。昨年度に引き続き、真福寺貝塚の東側、貝塚や住居跡が遺された高まり部分と、その内側の窪地部分で調査を行いました。

調査の結果、高まりには、縄文時代後期前葉から後葉にかけてのヤマトシジミを主体とする貝層が堆積しており、貝層下からは住居に関連する柱穴等を複数確認しました。

また窪地部分からは、晩期中葉の遺物を多量に伴う黒色土の堆積を確認しました。

なお、調査期間中には近隣の小学校2校の児童を対象として現地での体験発掘を行うとともに、事前授業と振り返り授業も実施しました。



窪地部分から出土した土器(真福寺貝塚)



城南小学校体験発掘の様子(真福寺貝塚)

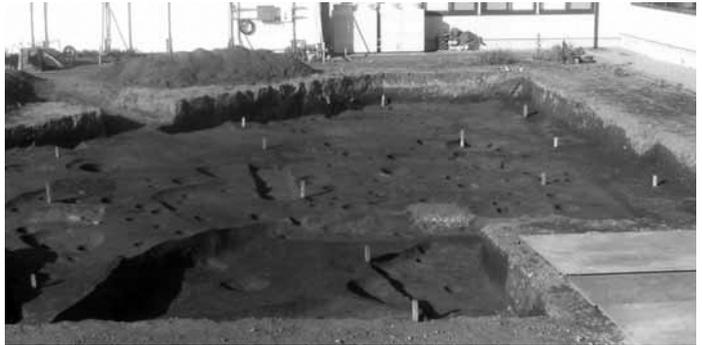
～重複する縄文時代の住居跡～ **A-146号遺跡の調査** <見沼区>

JR 東大宮駅の北東約1.7km、見沼区大字丸ヶ崎に所在する遺跡です。今回はA-146号遺跡での2回目の調査になります。

寺院建物の建て替えに先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成30年10月から11月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代前期後半の住居跡4軒、弥生時代中期後半の住居跡1軒、古墳時代前期の方形周溝墓(周囲に溝を廻らせた墓)1基、縄文時代の土器・石器、弥生時代から古墳時代前期の土器等の遺構・遺物を検出しました。

縄文時代前期後半の諸磯式期の住居跡が検出されたことにより、縄文時代前期の集落が遺跡の西側に広がっていることが確認されました。



縄文時代前期の住居跡(A-146号遺跡)

～弥生人のお墓～ **上太寺遺跡の調査** <中央区>

JR 南与野駅の北東約0.6km、中央区新中里に所在する遺跡です。今回は上太寺遺跡での6回目の調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が平成30年12月に実施しました。

調査の結果、弥生時代後半の方形周溝墓1基、<sup>たてあな</sup>竪穴状遺構1基、ピット3本、弥生時代の土器などの遺構・遺物を検出しました。

方形周溝墓は1辺の推定が約8mで、北東-南西の軸方向で検出されました。周溝の堆積土からは壺形土器が3個体検出され、内1個体はほぼ完存していました。また、調査区北側の一部では縄文時代中期の遺物包含層が検出されています。



弥生時代後半の方形周溝墓(上太寺遺跡)

～弥生時代の大型住居跡～ **円正寺遺跡の調査** <南区>

JR 南浦和駅の東約1.9km、南区大字円正寺に所在する遺跡です。今回は円正寺遺跡での5回目の調査になります。共同住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成30年5月から7月にかけて実施しました。

調査の結果、弥生時代の住居跡2軒、縄文時代の土器、弥生時代の土器などの遺構・遺物を検出しました。弥生時代の住居跡のうち、1軒は中期のもので長径9.4m以上の大型の住居で、出土した石器には赤色顔料が付着していました。



弥生時代中期の住居跡(円正寺遺跡)

きゅうせつ 縄文 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉・室町・戦国	江戸	近現代				
10000	200 BC	0 AD	200	400	600	800	1000	1200	1400	1600	1800	2000

## ～弥生時代の銅製のやじりが出土～

なかの だほりの うち  
中野田堀ノ内遺跡の調査 〈緑区〉

弥生時代後期の銅鍔の出土状況(中野田堀ノ内遺跡)

埼玉高速鉄道浦和美園駅の北西約0.7km、緑区大字中野田に所在する遺跡です。今回は中野田堀ノ内遺跡で9回目の調査になります。区画整理事業に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成30年6月から12月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代の住居跡5軒(うち4件は縄文時代前期)、土坑20基、弥生時代後期の住居跡5軒、古墳時代中期の住居跡2軒、平安時代の住居跡2軒、縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石器・銅製品、平安時代の土器等の遺構・遺物を検出しました。

このうち弥生時代後期の住居跡からは、これまで市内ではあまり出土例がない銅製のやじり(銅鍔)が出土しました。

## ～建て替えられた住居跡～

にしうらみなみ  
西裏南遺跡の調査

## 〈緑区〉



縄文時代中期の住居跡の一部(西裏南遺跡)

埼玉高速鉄道浦和美園駅の南約1.2km、緑区大字大門に所在する遺跡です。今回は西裏南遺跡での3回目の調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が平成30年5月に実施しました。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡1軒、土坑1基、ピット1本、縄文時代中期の土器などの遺構・遺物を検出しました。

住居跡からは2本の壁周溝(住居の壁際に掘られた溝)が重複して検出されたため、建て替えが行われたと思われま。

今回の調査により、調査地点の周辺には縄文時代中期の集落が展開していたことが確認されました。

## ～中世人の信仰～

じんでさくた  
神田作田遺跡の調査

## 〈桜区〉



宝篋印塔の出土状況(神田作田遺跡)

JR 与野本町駅の南西約1.4km、桜区大字神田に所在する遺跡です。今回は神田作田遺跡では初めての調査になります。宅地分譲工事に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成30年6月から7月にかけて調査を実施しました。

調査の結果、中世の土坑10基、中世・近世の陶磁器・石造物・銅製品などの遺構・遺物を検出しました。

中世の井戸跡や土坑からは、墓石や供養塔として使用された宝篋印塔2点、銅銭1枚などが出土しました。また、確認調査時には15世紀の中国の明で生産された青磁の蓮弁文碗が出土しています。

## 埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様へ埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

平成30年9月から11月まで、市内の発掘調査成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館(大宮区)、七里コミュニティセンター(見沼区)、コクーンシティ2(大宮区)の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設でも開催したことにより、多くの方にご来訪いただきました。



最新出土品展(コクーンシティ2)

最新出土品展開催中の9月15日には「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」をさいたま市立博物館で開催し、市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表しました。発表会終了後は、市立博物館の特別展示室で調査担当者が出土品の展示解説を行いました。

この他、さいたま市生涯学習「学びのネットワーク」事業の一環として、発掘調査で出土した茶道具をとりあげた「茶」に関する展示をさいたま市役所文化財保護課カウンターと与野文化財資料室で開催しました。

## お知らせ

### □さいたま市指定無形民俗文化財「南部領辻の獅子舞」の公開

平成31年5月12日(日)(雨天中止)

10時～ 鷲神社境内での公開 鷲神社(緑区南部領辻2941)

13時～ 村祈祷 南部領辻地区内

春の公開は、鷲神社を出発し、南部領辻地区内を巡る村祈祷があります。

※詳しくはさいたま市のホームページをご覧ください。文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。実施日当日のお問合せは、さいたまコールセンター(☎835-3156)までお願いします。



南部領辻の獅子舞

### □国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の案内

桜草公園内「田島ヶ原サクラソウ自生地」(桜区田島)において、ボランティアによる案内を4月21日(日)まで毎日実施しています。

サクラソウをはじめ、ノウルシやヒキノカサなどの希少種を含む様々な植物をご覧ください。

※案内は9時30分から16時まで。雨天・強風中止。

開花情報はさいたま市のホームページでお知らせしています。



サクラソウ